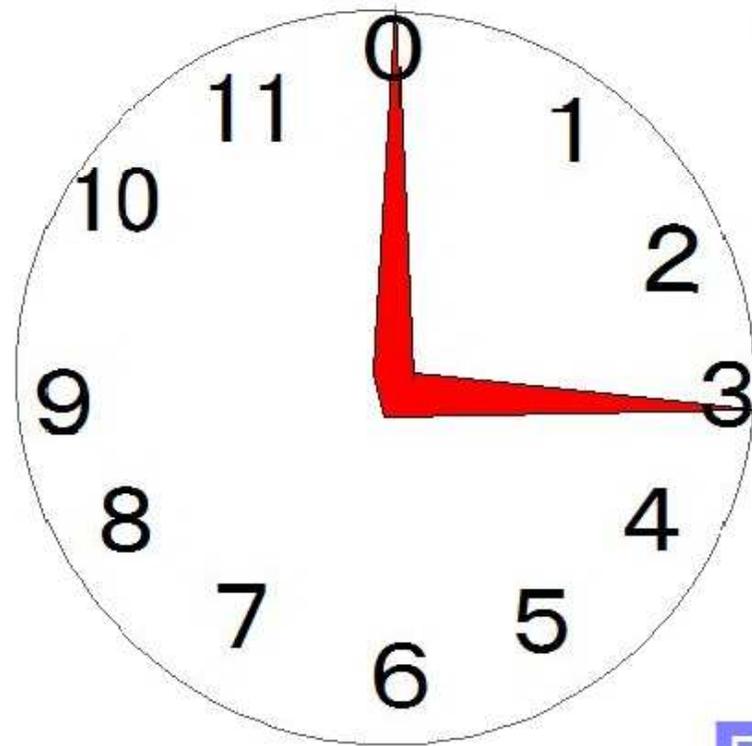


や や こ し ど け い で

だ い そ う ど う

め ま き



原作 隆杉 千草 絵 芦川 健

広島算数サークル 伊田忠司

①

①の裏



むかしむかし、といっても、さほどむかしでないころのおはなし。おじいさんとおばあさんが住んでいました。とても、幸せに暮らしていました。

都会に行った子どもが月に一度孫を連れて帰ってくるのが一番の楽しみでした。

おじいさんは、畑仕事、おばあさんはばんごはんを作っていました。

このおうちには、困った事が一つだけありました。それは、壁がこの間の地震でひび割れて、時計を掛けるところがなく、仕方なく右と左の柱に掛けていました。右と左って？どういうことでしょう。

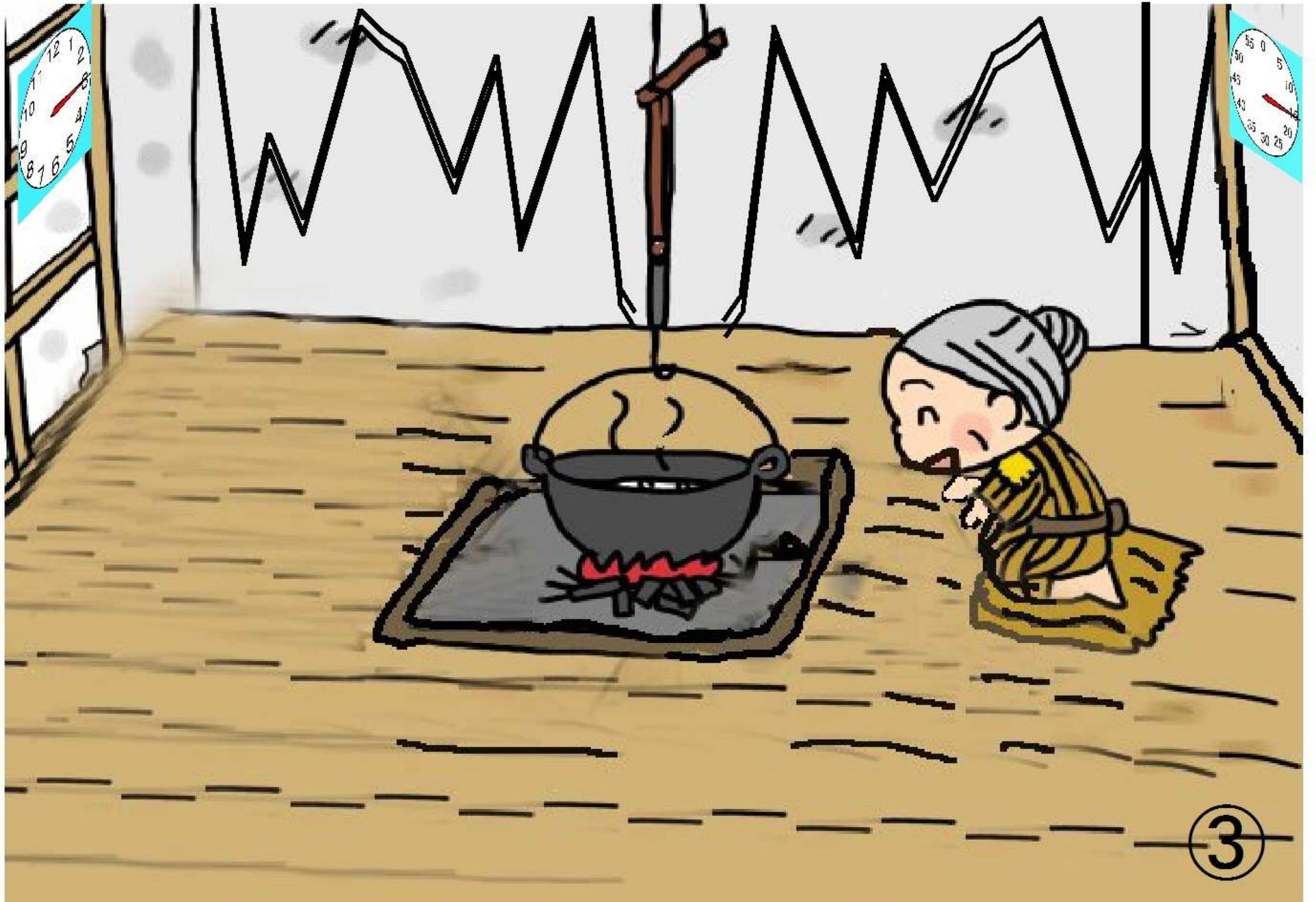


②の裏



実はその頃の時計は、まだ時間と分の時計の2つの時計だったのです。
とって、(教室の壁に「なんじ時計」反対側の壁に「なんぶん時計」を貼る。)





③の裏



普段は優しいおじいさんですが、時間だけは、きっちりしています。
畑でなにやら、叫んでいます。

「ばあさんや、今何時かいのう。！」

おばあさんは、料理作りに一生懸命です。聞こえません。



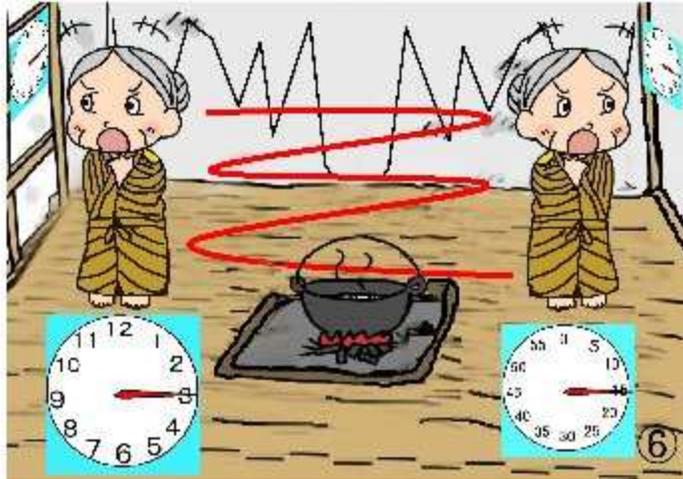
④の裏



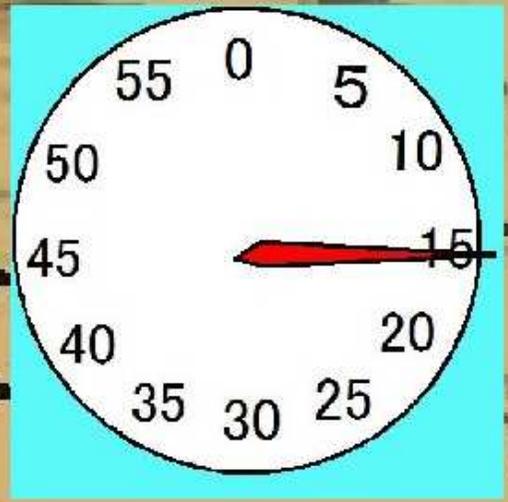
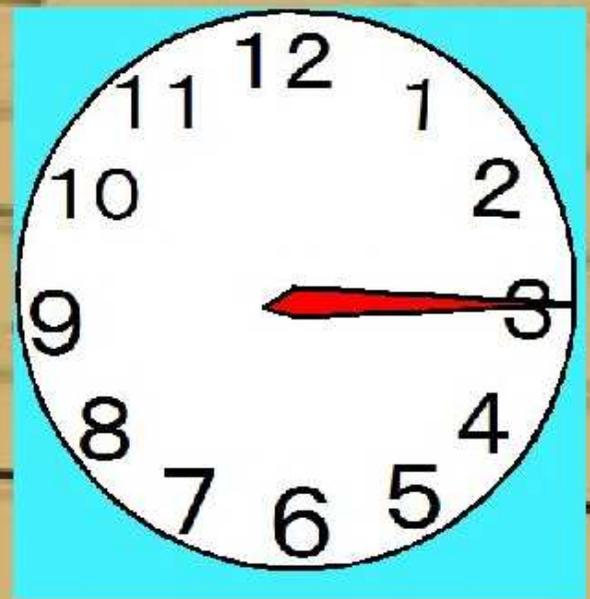
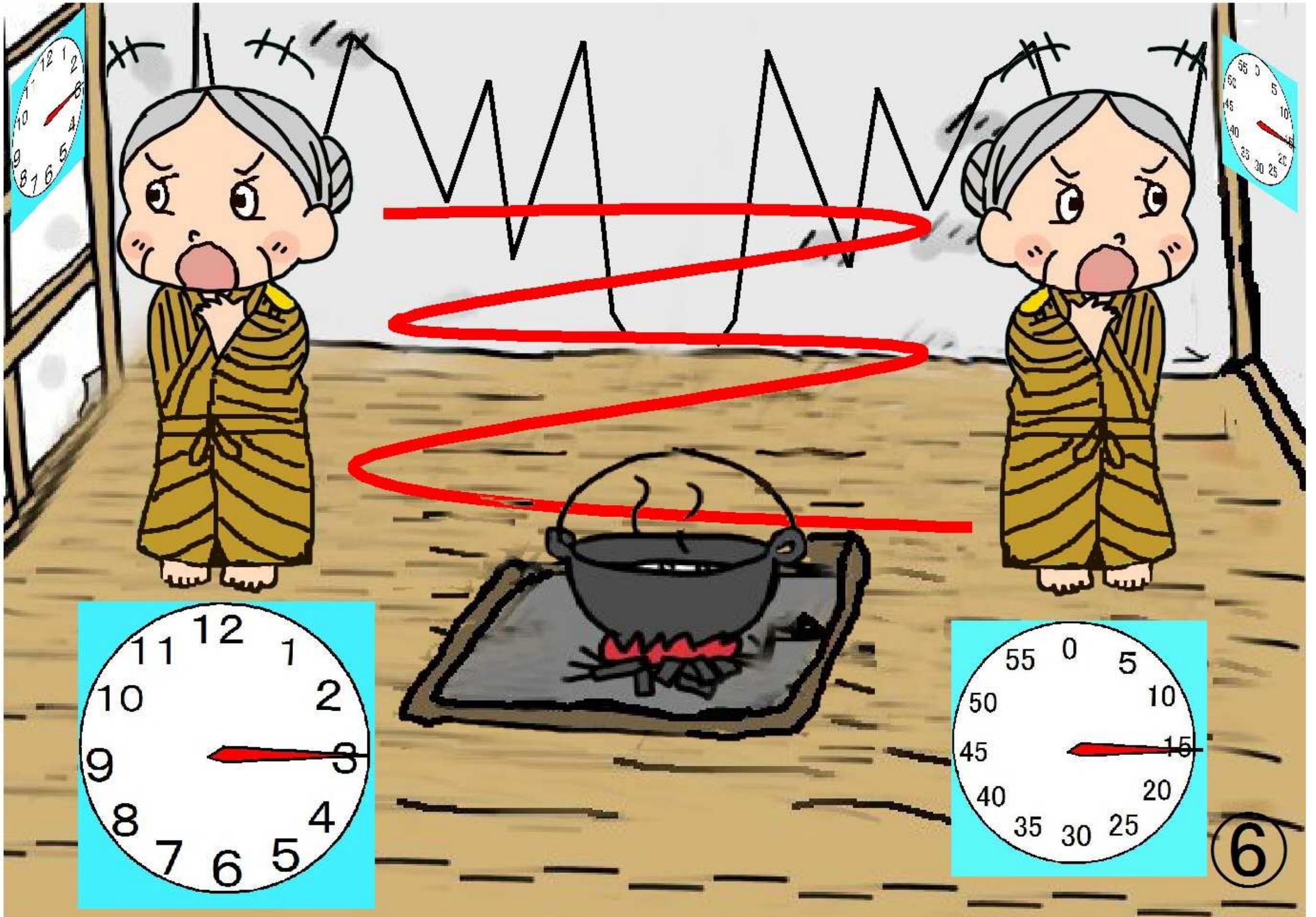
「ばあさんや，何時何分かいのう！！」もっと大きな声で叫びました。それに，気がついたおばあさん。慌てて，時間を見に行きました。



⑤の裏



えーと、3時。 15分。 エー、何時だったっけ。またまた、時間の方に。3時じゃね。エー何分だったっけ。 またまた、分時計の方に行きました。15分ね。そうしているうちに、またまた、おじいさんの声が聞こえてきました。

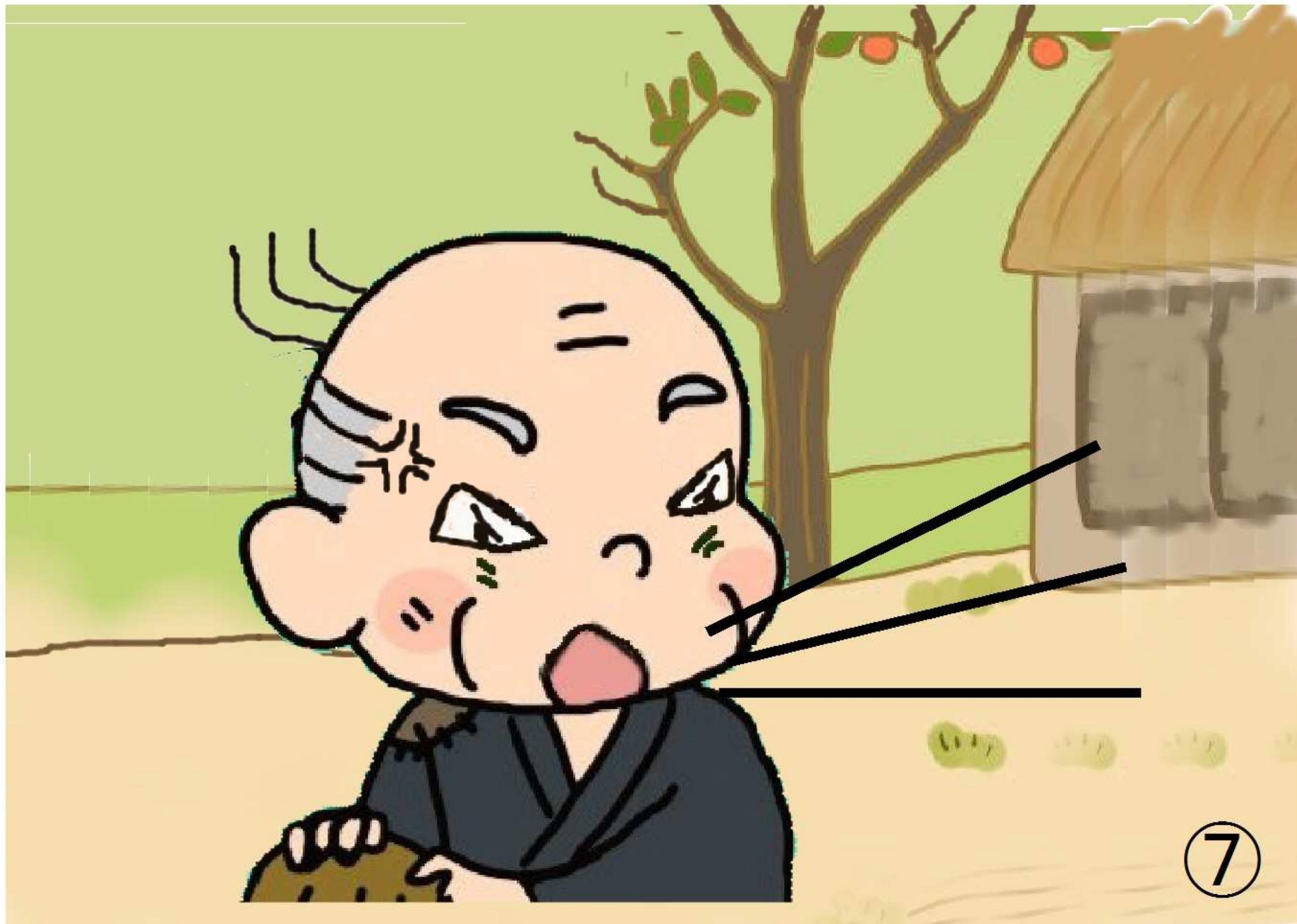


6

⑥の裏



「なにやっとりんさる。何時何分かいのう」



⑦の裏

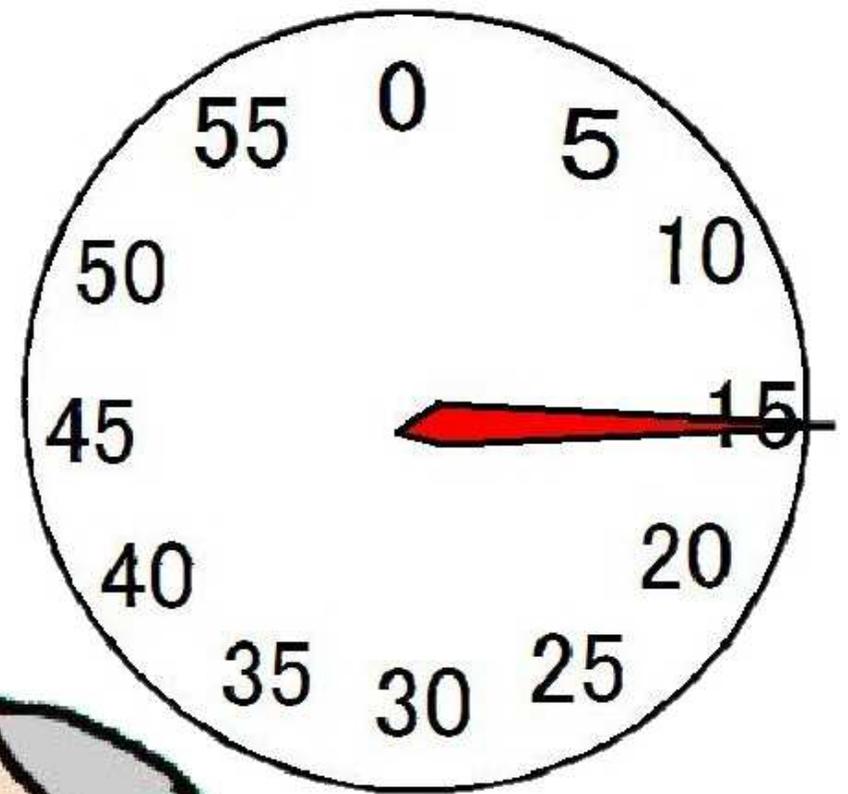
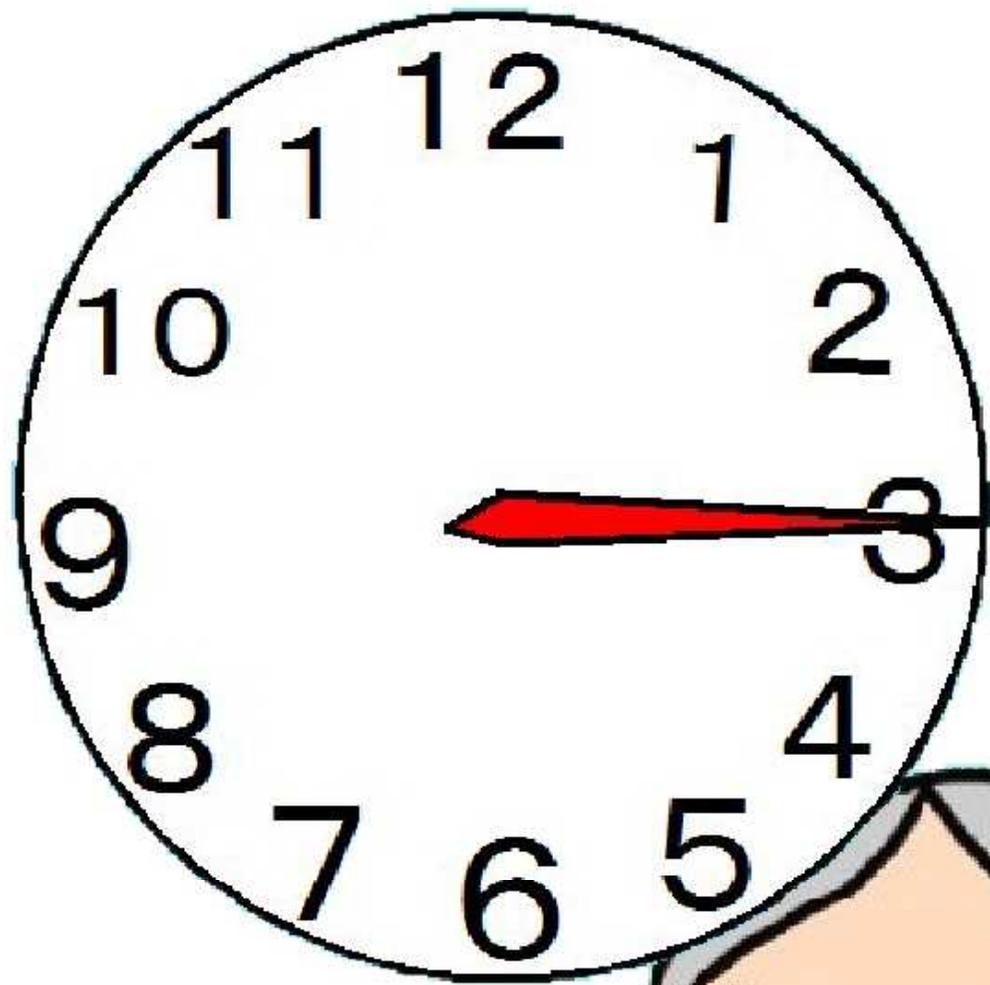


その声に、あわてたおばあさん。確か、3時15分だったような。もう一度、左の時間時計の方に行きました。

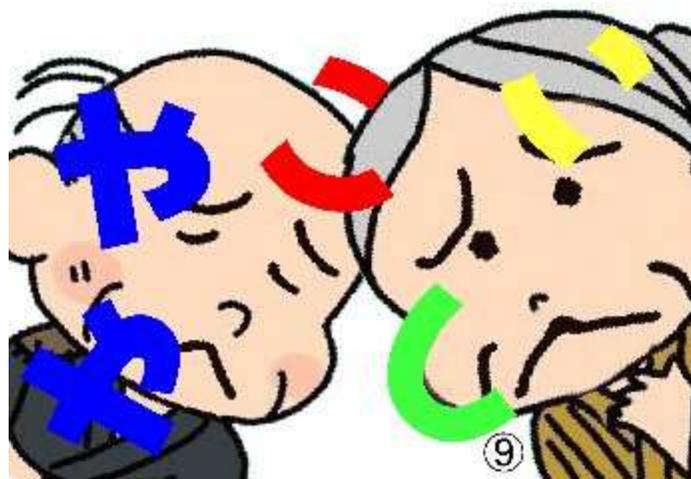
えーと、3時。3時じゃね。エー何分だっけ。またまた、分時計の方に行きました。15分ね。おじいさん、3時15分です。と大きな声で叫び返しました。

毎日、毎日その繰り返し。

「ふう〜〜。毎日おじいさんが畑仕事をしてくれるのは本当に有難いんじやが・・・毎度毎度、やれ何時じゃ〜??ほれ何分か〜??と尋ねられと・・・、答えるのが大変なんよのう〜。」



⑧の裏



ややこしい。なんか、いい方法は、ないもんかいのう。

紙芝居をおいて、クラスみんなに聞いてみる。話し合い。

T みんな！！おばあさんが困ってるよ。なにかいい方法はないかな？

C ややこしいもんね。

C 時計を1つにしたらいんじゃない??

C そうしたら「なんじ」だけ・・・とか、「なんふん」だけ・・・になっちゃうよ。

C そうじゃなくて、2つの時計を1つに合体させるんよ！！

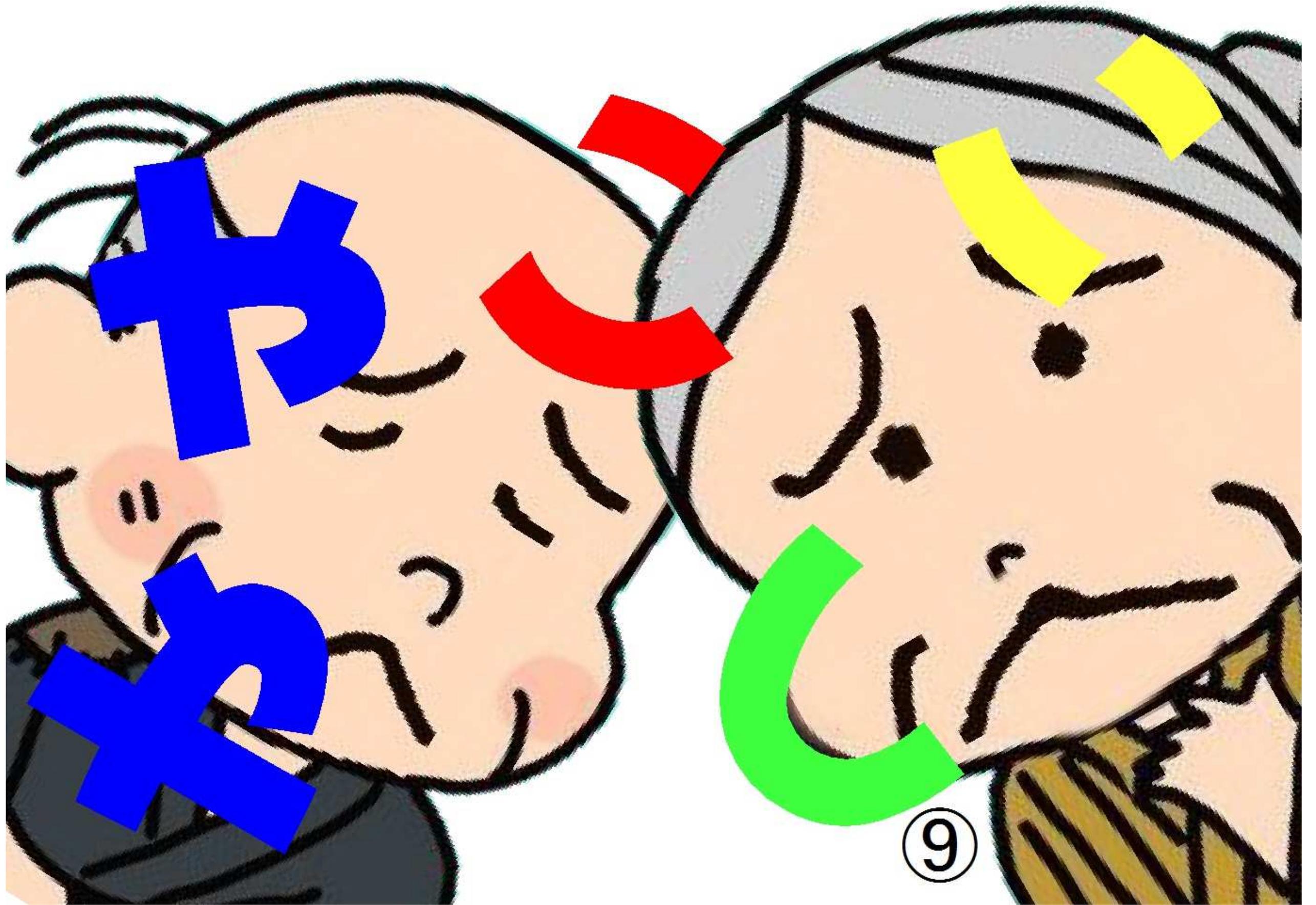
T なるほど！！1つに合体した時計にするといいよって、おばあさんに教えてあげよう！

おばあさ～～ん！「なんじ時計」と「なんふん時計」・・・1つにしたらどうですか～～??

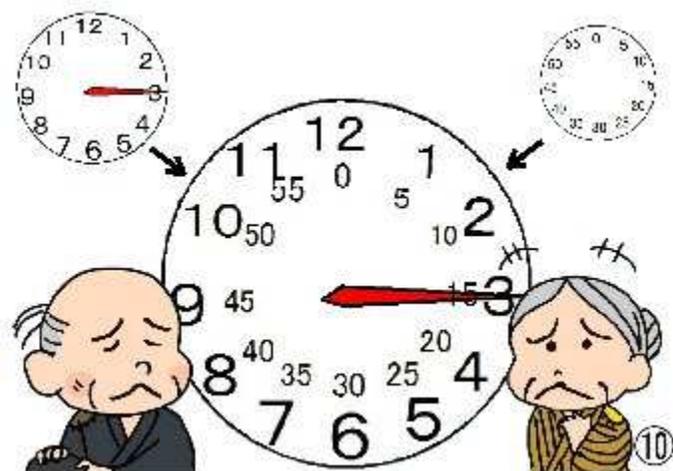
紙芝居を持つ

ばあさん 「はっっ！？時計を1つにすればいいんじゃないかって??

お天道様の声かの？座敷わらしかのう??・・・まあ・・・どっちでもええわい。良い考えをいただいたもんじゃ。ありがたや、ありがたや。



⑨の裏



さっそく時計を1つにしてみました！！」

T こんな時計にしたみたいだよ。

(「なんじ時計」に「なんふん時計」の文字盤を重ね合わせたものを見せる。)

C ややこしい～！

C 1つになったけど、数字だらけで見えにくいよ。

C 難しいんじゃないかな。

じいさん 「お～～い。ばあさんや～。今、なんじ、なんふん じゃ～??」

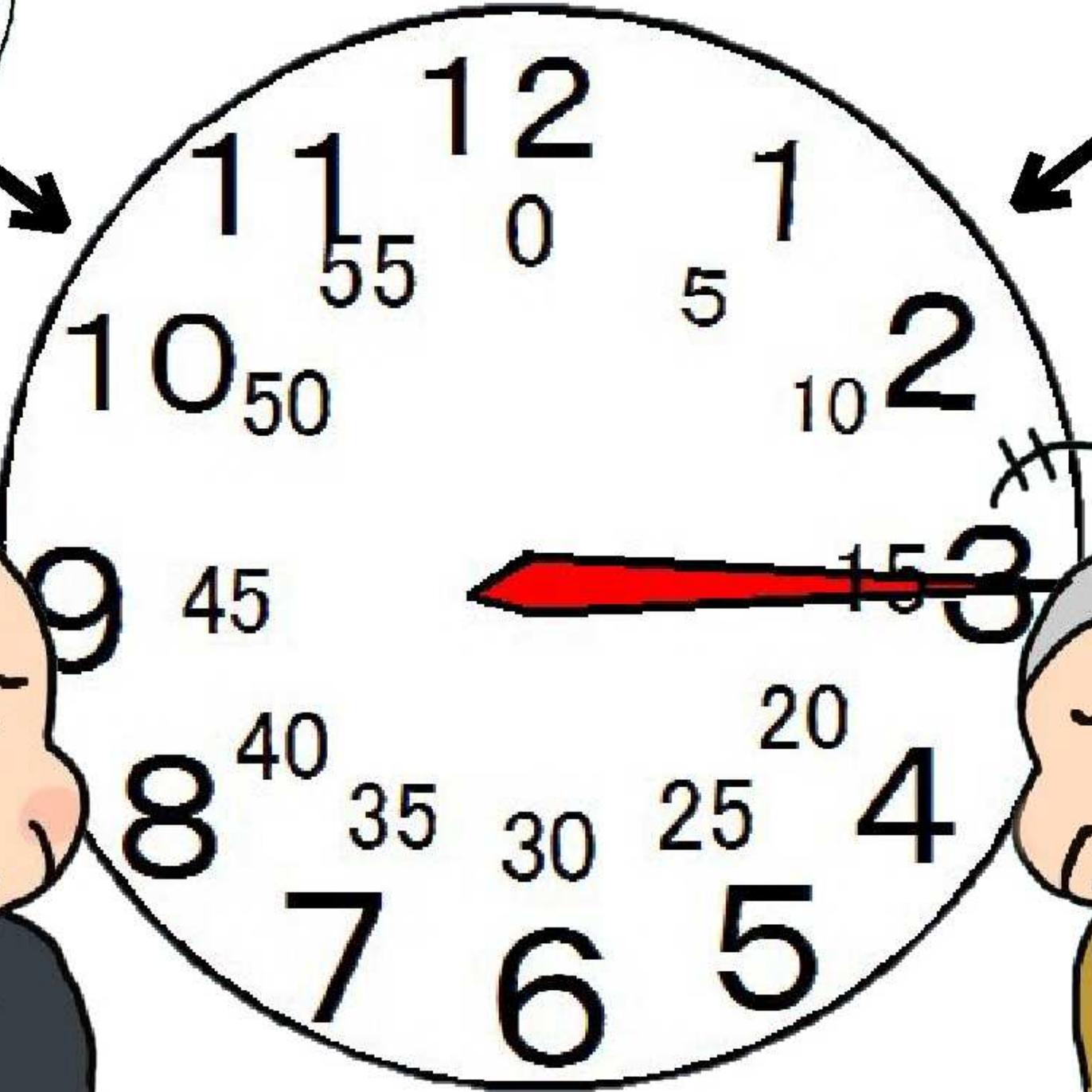
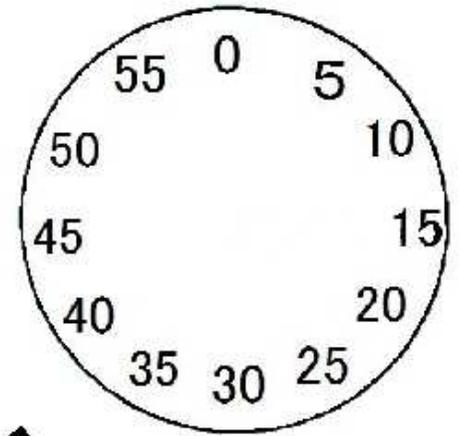
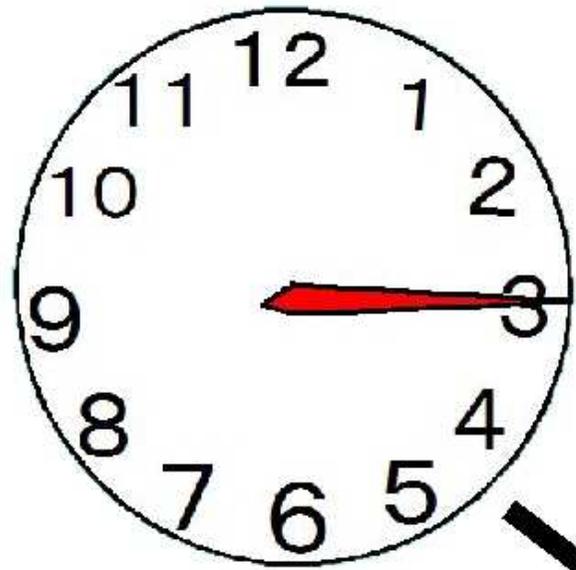
ばあさん 「は～い。今は・・・

(悩んだ顔で・・・目をこすりながら・・・)

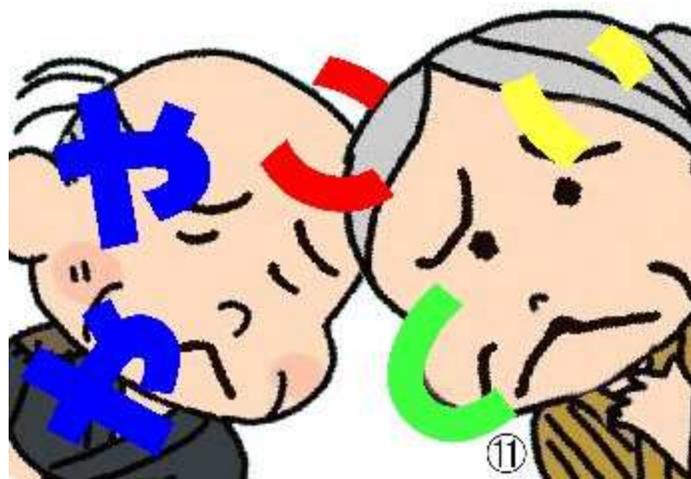
今は・・・3時ぴったり・・・なんかのう・・・数字がたくさんあってよお分からんのじゃ～。」

15もあるから、15分かのう。





⑩の裏



ややこしい

T ややこしいみたいだね。どうしようか。おばあさん、まだ困ったままだ。いい方法だと思うんだけどなあ。

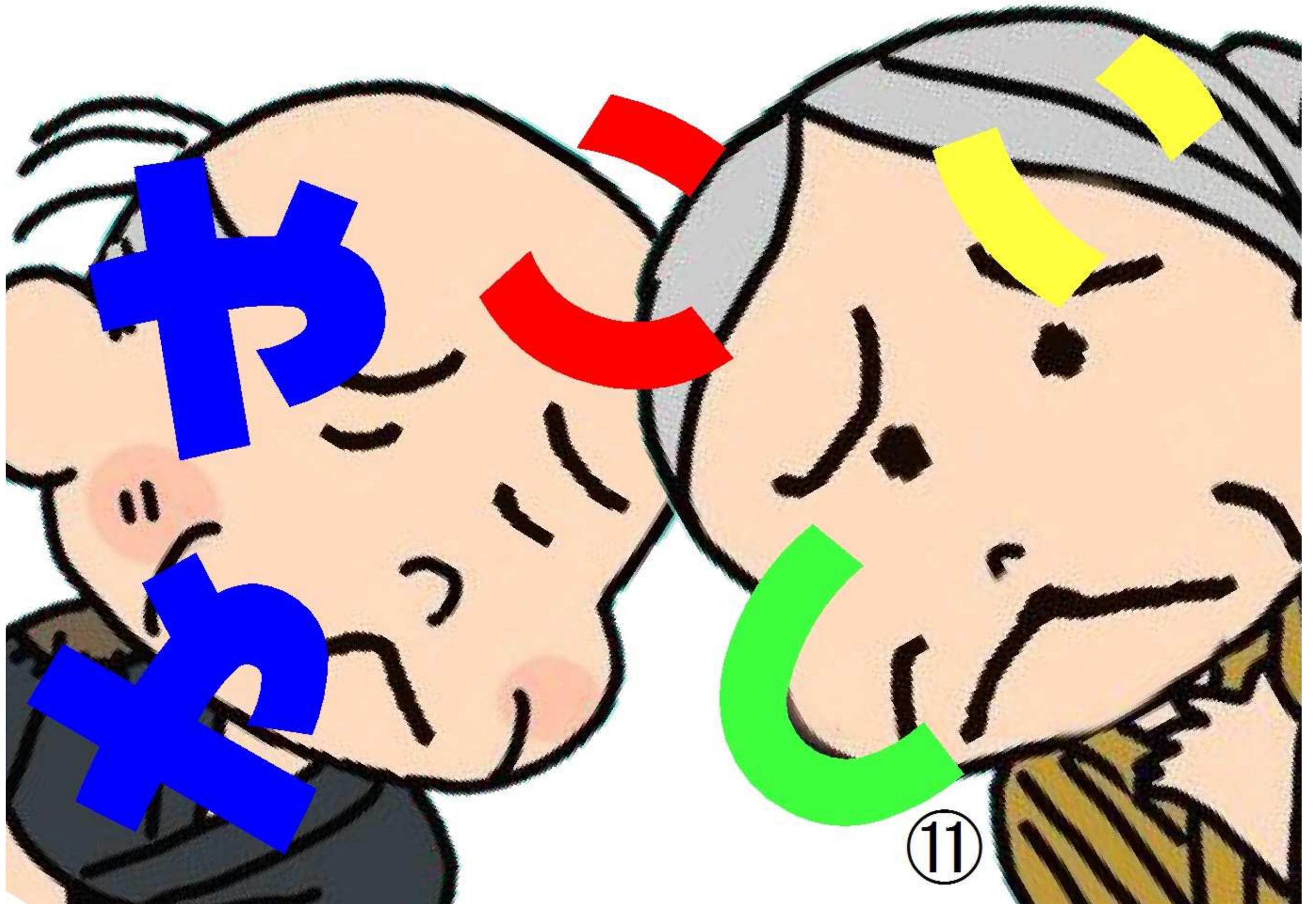
C 数字がいっぱいありすぎて、ややこしすぎるもんね。

C なんふんかは、覚えることにしたらどう？。

T そうだね。数字はすっきりさせて、何分かは覚えることにしようか。時計が読みにくくなったんじゃあ意味ないもんね。おばあさんは・・・どうするかなあ？

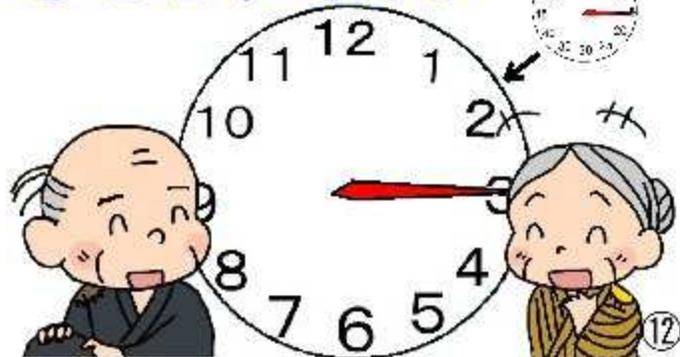


これを、見せて考えさせる。



⑪の裏

3じ15ぶん おぼえる

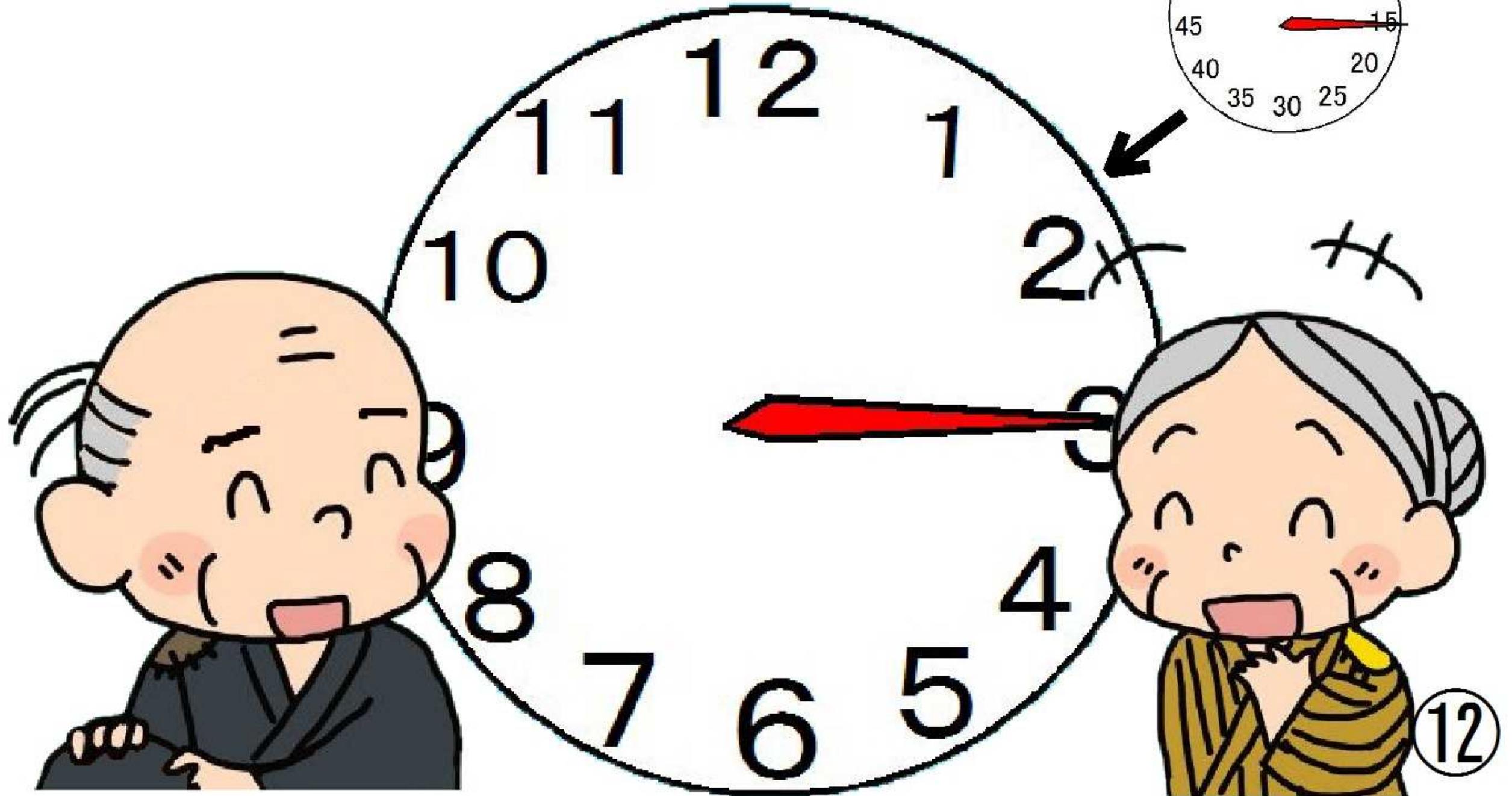


ばあさん「う〜〜ん・・・時計が1つになったのは、とてもいい考えじゃった。あっちの時計を見たり、こっちの時計を見たりせんでも1ちんぽ時計だけ見ればすむからのう。う〜〜ん・・・この際、**なんぶん**は覚えることにして、時計の中身をすっきりさせることにしよう。」

じいさん「お〜〜い。ばあさんや〜。今、なんじ、なんぶん じゃ〜〜？」

ばあさん「今は・・・**3じ15分**ですよ〜。」
「ご飯の下ごしらえが済んだから、次は洗濯物をたたみましようかね。」(畳むふりをする。)

3じ15ぶん おぼえる



⑫の裏

4じ20ぶん



6じ30ぶん



5じ25ぶん



⑬

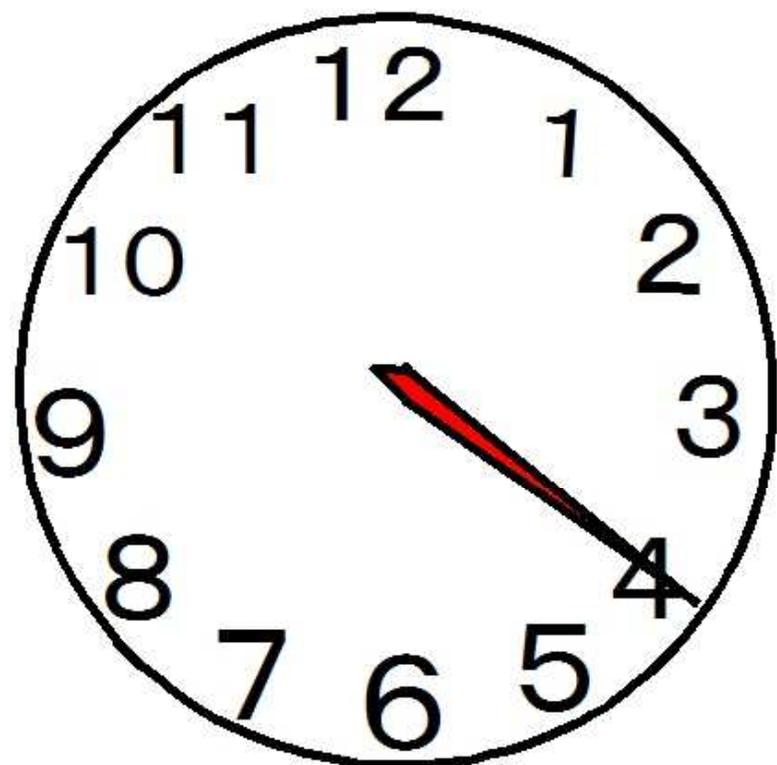
じいさん 「お〜い。ばあさんや〜。今、なんじ、なんぶん じゃ〜？」

ばあさん 「今は・・・4じ20分ですよ〜。」

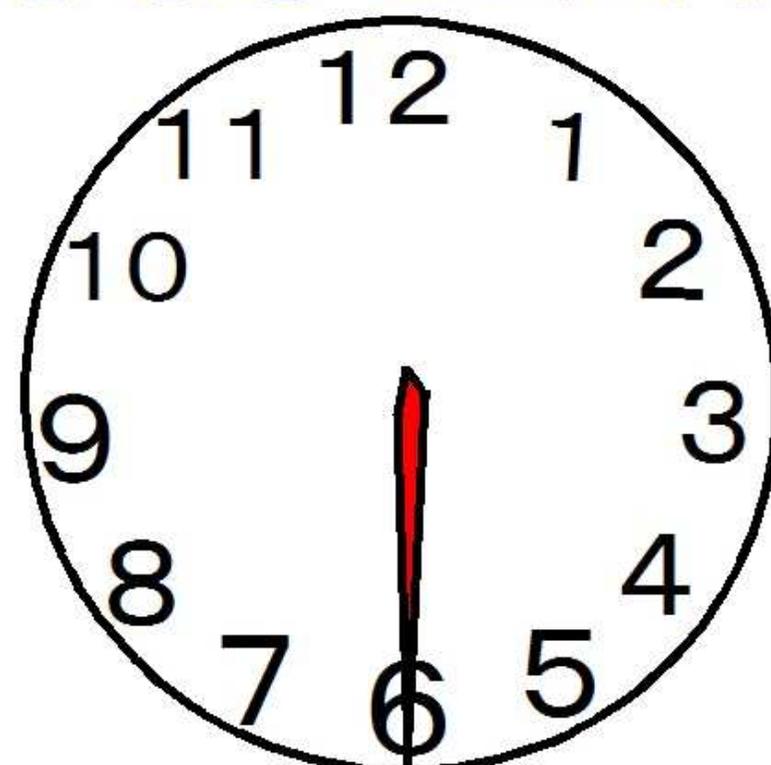
じいさん 「ありゃま！！ もう1時間以上、時間が経ったんか??おかしいのう。気のせいかなのう？」

もう、5時25分になつとる。一時間が立つのがどんどんはやくなるのう。ありゃ、6時30分だ。どうなつとる？

4じ20ぶん

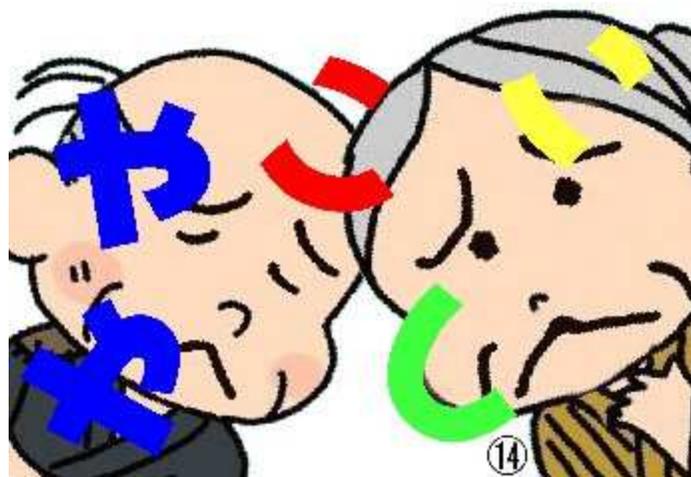


6じ30ぶん



5じ25ぶん

⑬の裏



ややこしい

⑬の紙芝居を、黒板に貼って クラスで話し合い

T あれ？次はおじいさんが困ってる・・・なんでだろう？

c さっき、3時15分だったのに、もう4時20分になったから、びっくりしたんじゃないかな」

C 針が1本しかないよ！！

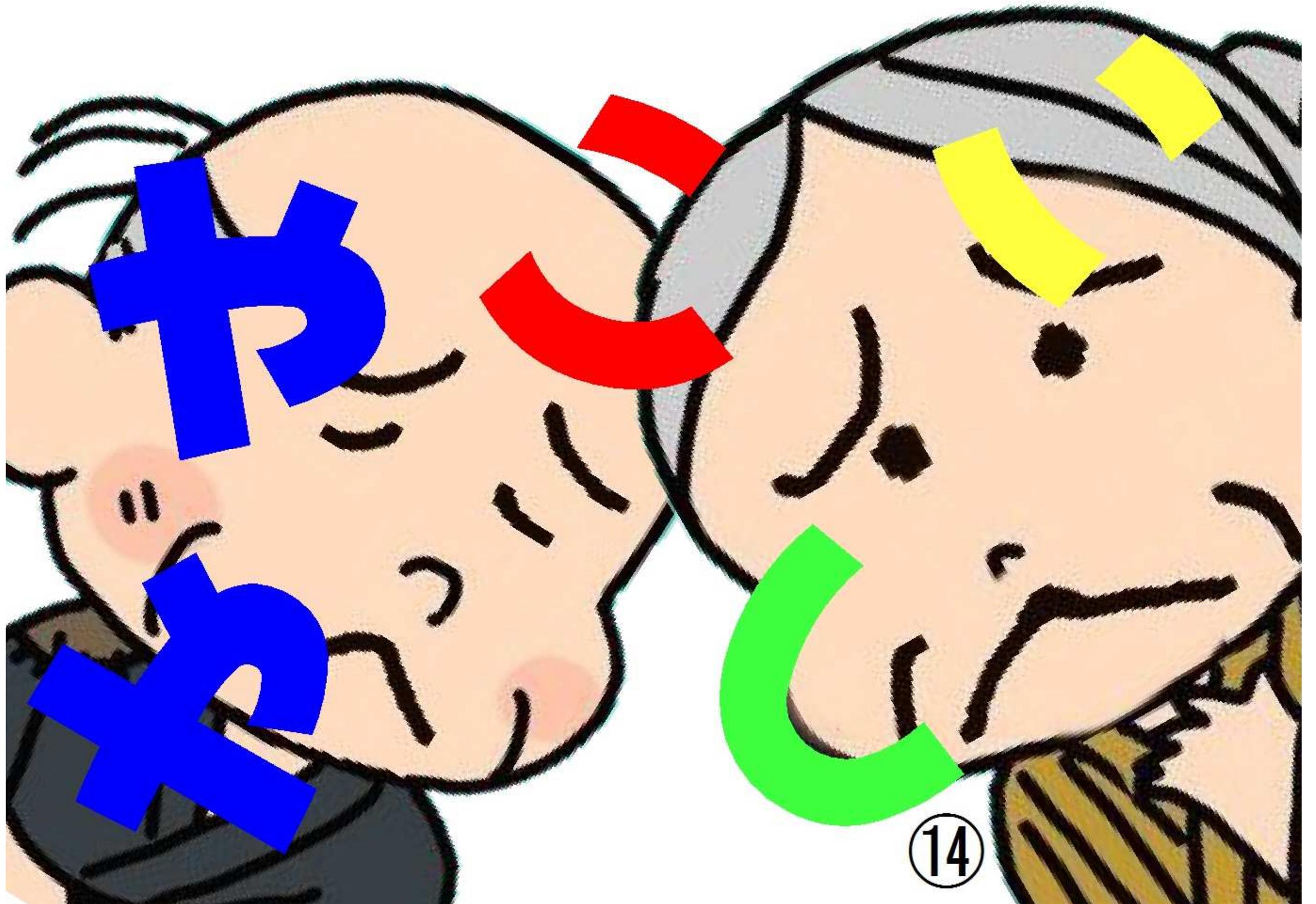
T そうだね。これじゃ、ずっと、3じ15分、4時20分、5時25分、6時30分・・・。
決まった時間しか読めないね。どうしようか？

C 針は2本いるよ！！

T なるほど！！じゃあ、2本にしよう。

針が二本の時計を出す。





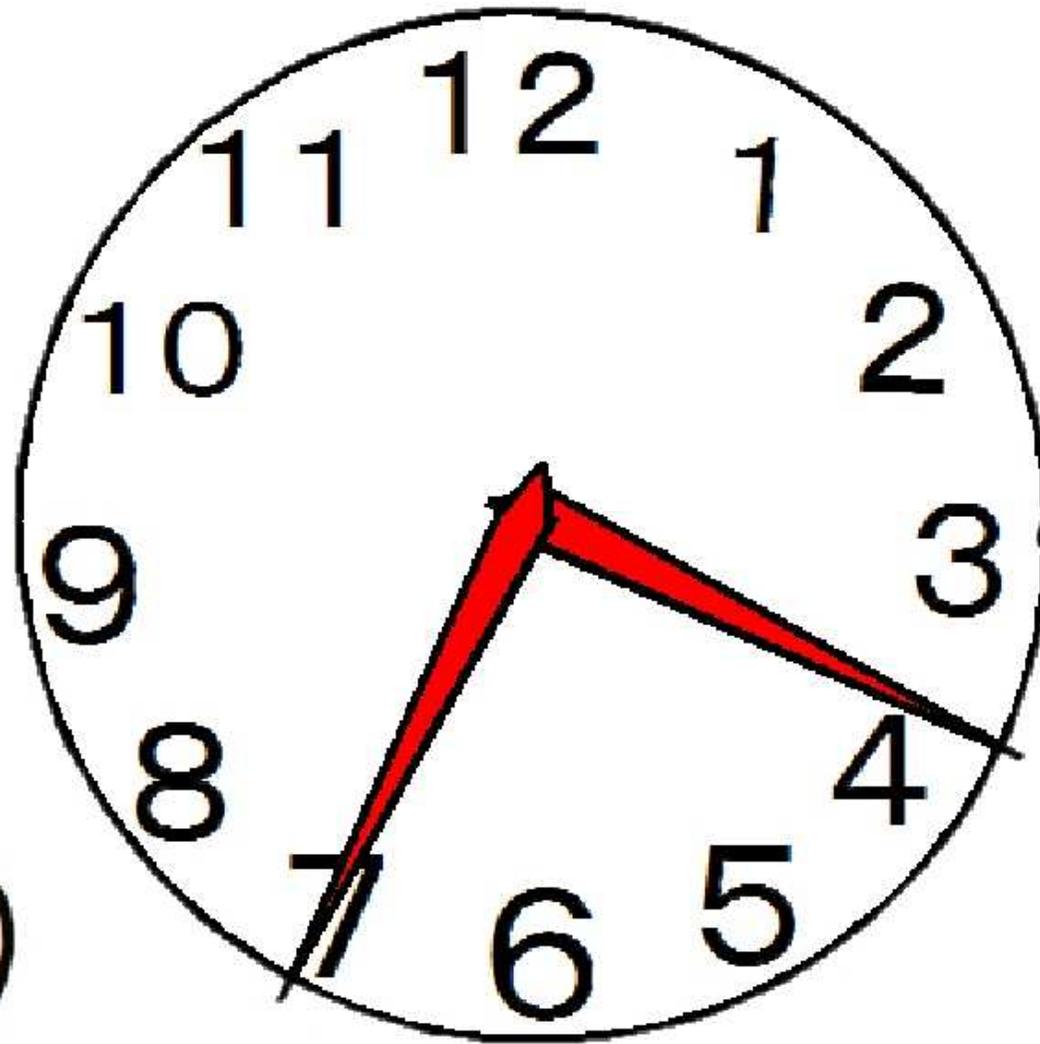
⑭の裏

はりを二つにしたら？



3時35分。こりやいいですね、おじいさん。
やっと、楽になったみたいですね。

はりを二つにしたら？



3じ35ふん



⑮の裏



じいさん 「ばあさんや～～。今、なんじ、なんぶん じゃ～～??」

ばあさん 「今ですか～。今は・・・**12時30分**ですよ～～。」

じいさん 「なんじゃと!? わしゃ、晩飯も食わずに**夜中の12時30分**まで畑仕事をしておったのかい!! こんなことでは、身体を壊してしまう!!」

「ばあさんや!! 布団を敷いとっておくれ! もう寝んことには病気になってしまうわ～い。」

ばあさん 「何とぼけたこと言ってるんですか。今から晩ご飯ですから、寝るのはその後にしてください。」

じいさん 「とぼけてるのは、ばあさんのほうじゃろう。もう夜中の12時過ぎておるんじゃろう・・・!?!」

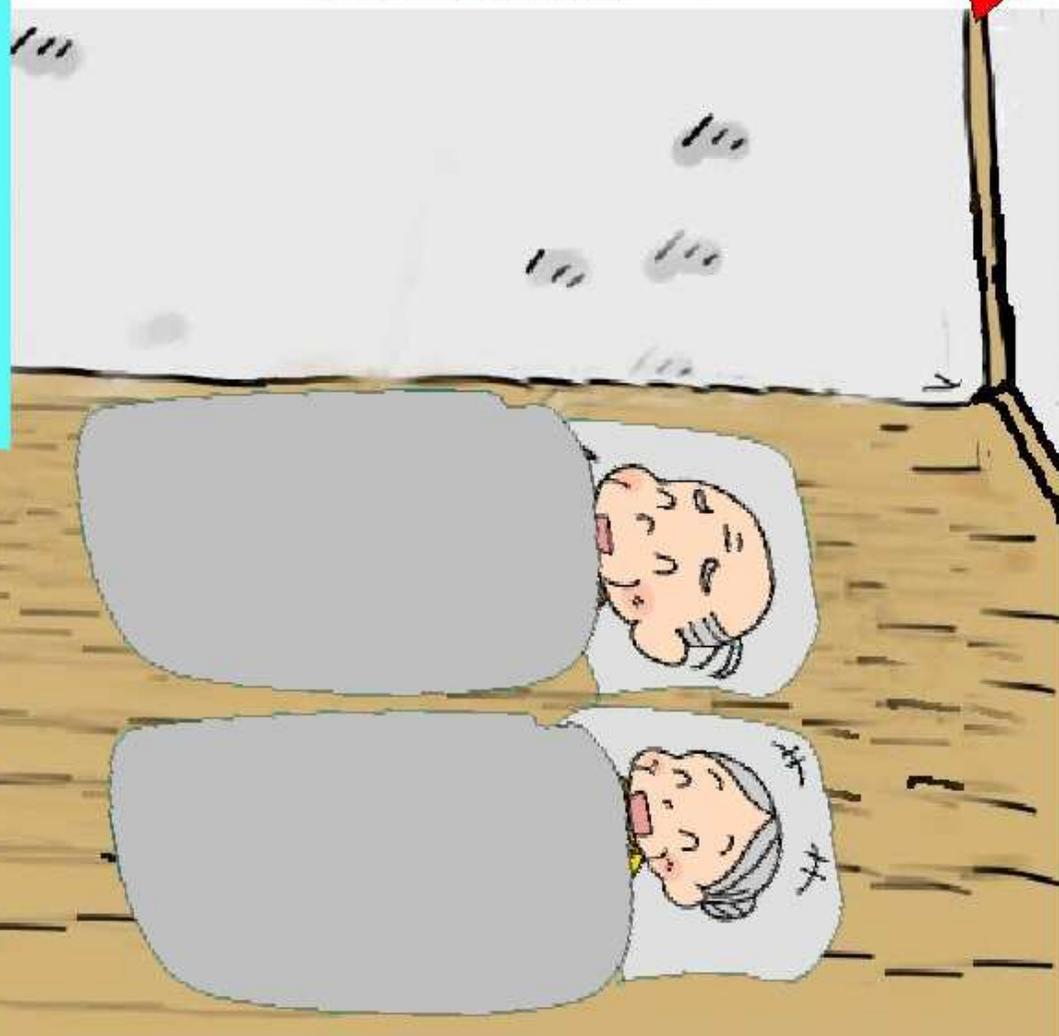
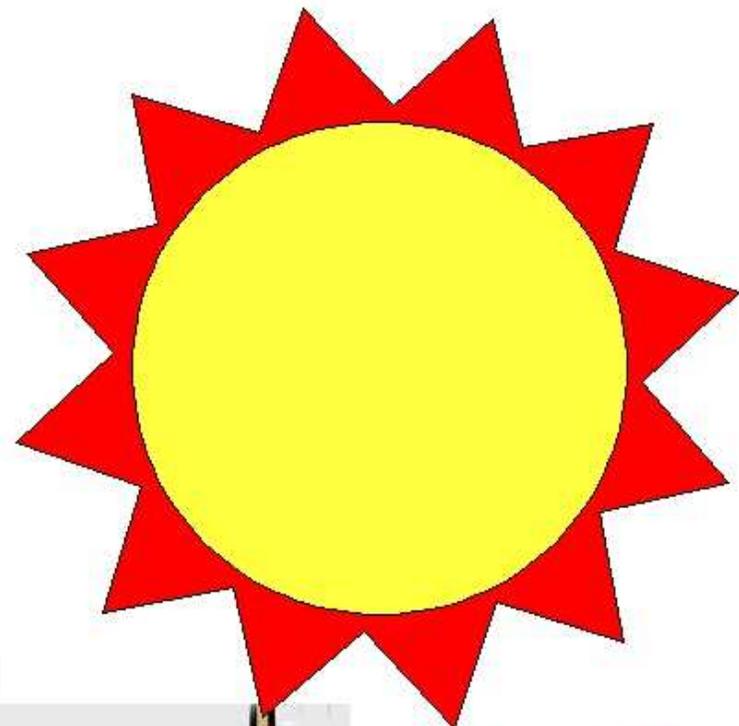
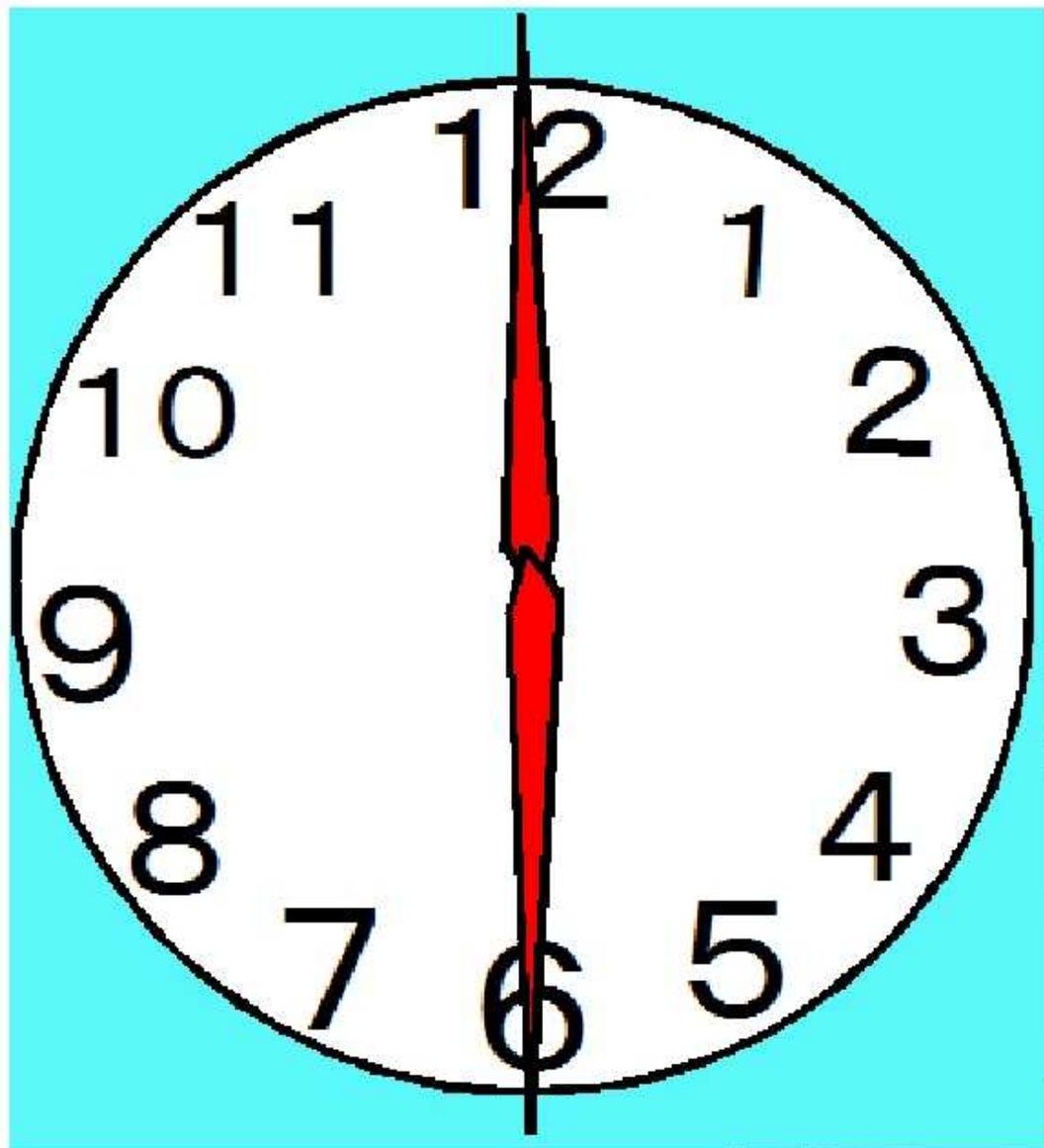
(困った顔で・・・)

寝ていると、まだ、外が明るい。

ばあさん 「おかしいのう・・・。夜中なのにこんなに空が明るいなんておかしいのう。

おじいさん、おひさまがまだでていますよ。」

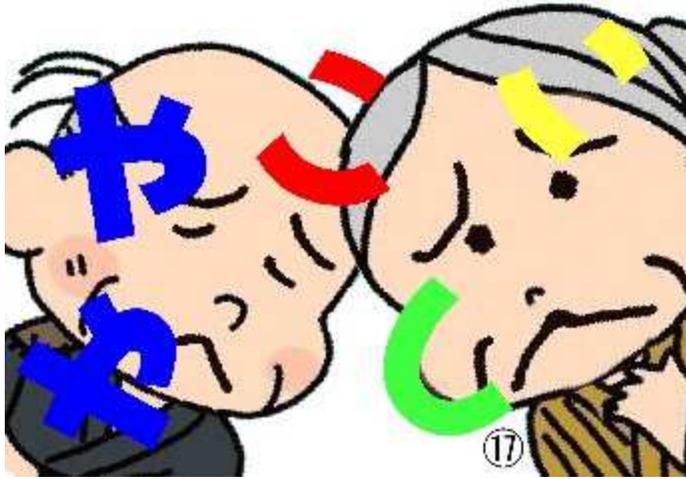
じいさん 「なんだって、どういうことじゃ」



よ中
12じ30ぶん
はやくなよう

おひさんがまだ起きてますよ
そとがあがるいそぎ

⑩の裏



ややこしい

⑩の紙芝居を黒板に貼って、

クラスで話し合い

T 空が明るいのに夜中？

夜中の12時30分に晩ご飯・・・今から晩ご飯??・・・おかしいですね。

C 12時30分じゃなくて、6時ぴったりなんじゃない？

T なんで、間違えたんだろうね。

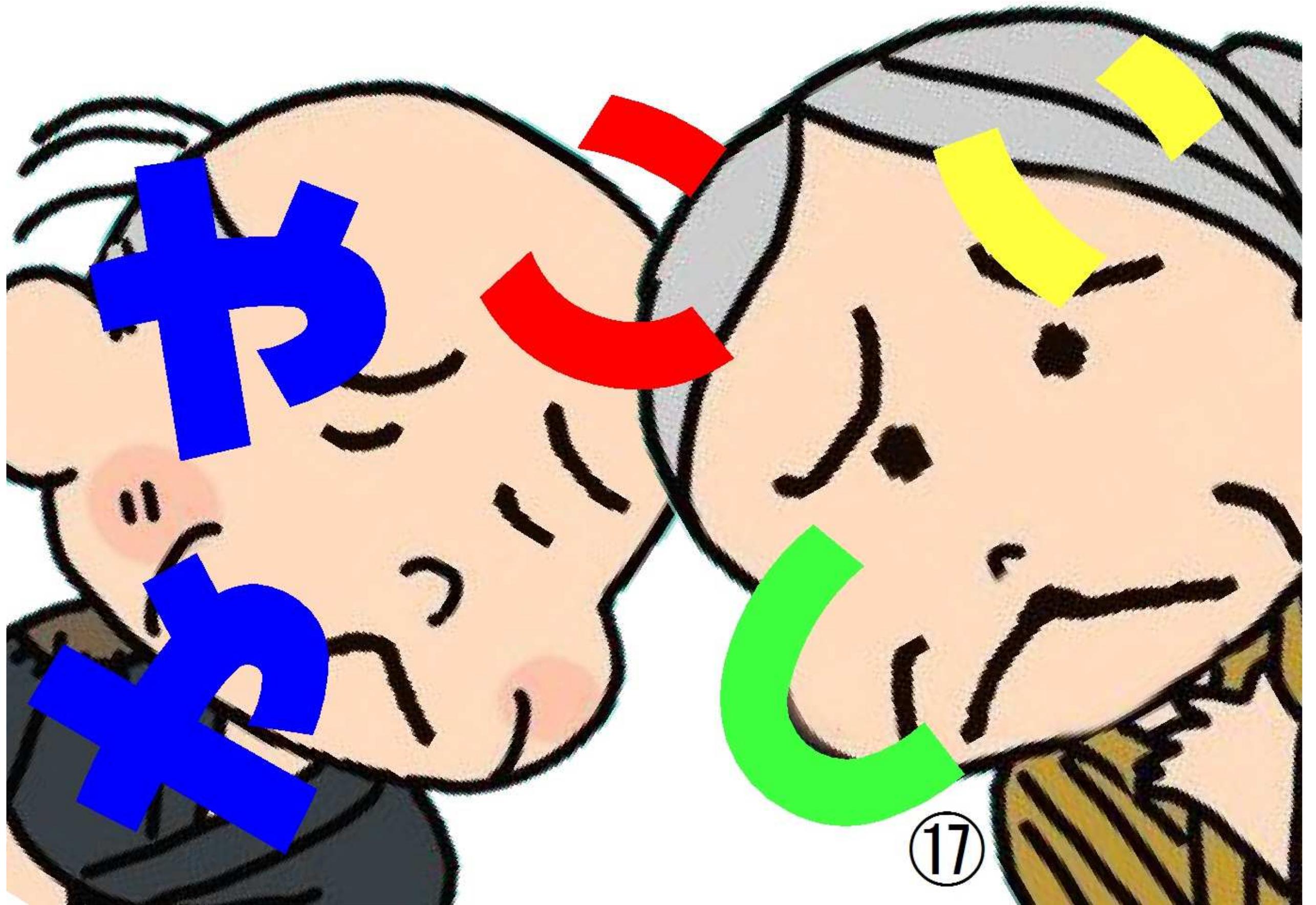
C 時計の針の長さがややこしいんじゃない？

T どうしたらいい？

C 片方の針を短くしたらいいんよ。

T なるほどね！おばあさんたちは、大丈夫かな。
短くした時計を見せる





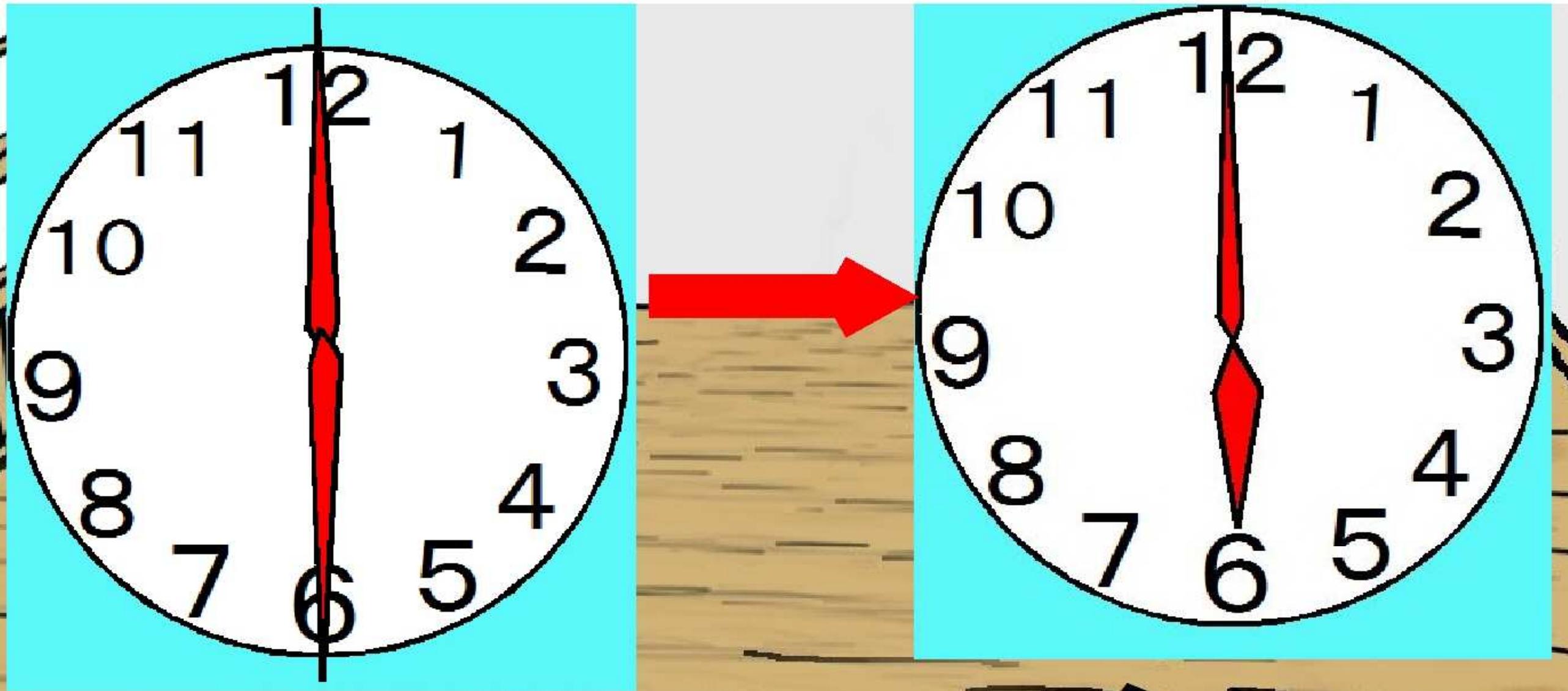
⑰ 裏

おばあさん「明るいのに夜中なんて・・・おかしいはずじゃわ。今は6時ぴったりなんじゃから。しかし、この針では、またさっきのように間違えてしまうけんのう。

・・・。そうじゃ！！時計の針の片方を短くすればいいんじゃ！！」

「なが～～い針がなんぷ～～～ん で、みじかい針がなんじ・・・ということにしよう！！」

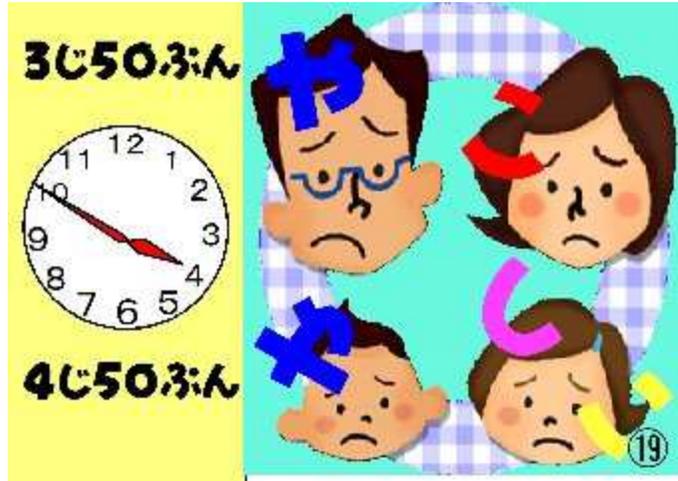




6じ

なが〜〜い はりがなんぷい〜〜〜ん で、
みじかい はりがなんじ・・・

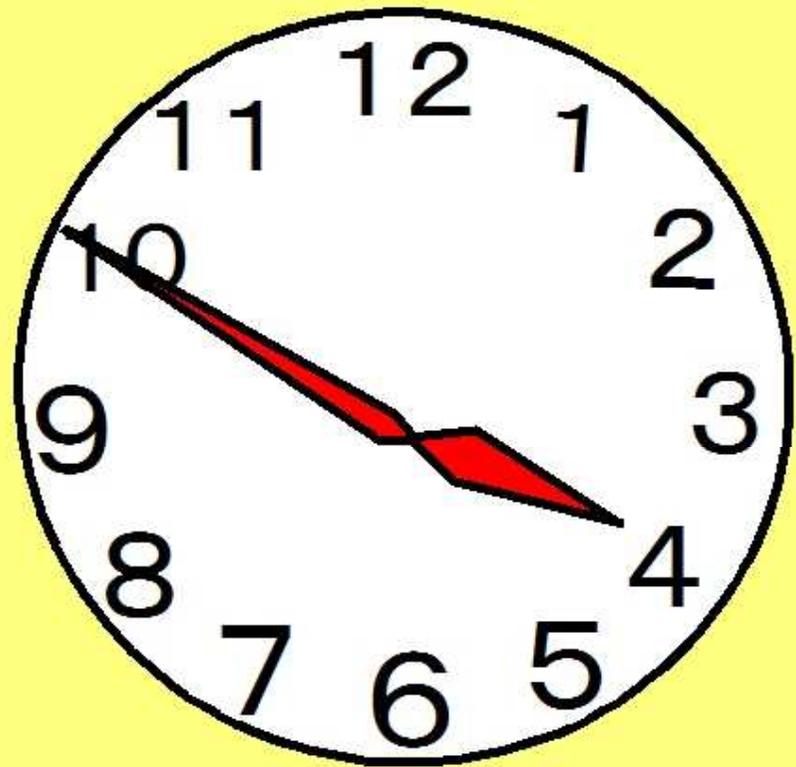
⑱の裏



今日は、孫達が来る月に一度の楽しみの日

来てそうそう、子ども達がけんかをし始めました。
今は、3時50分だよ。違うわよ、4時50分だって。
ねえ、お父さん、お母さん。どっち？

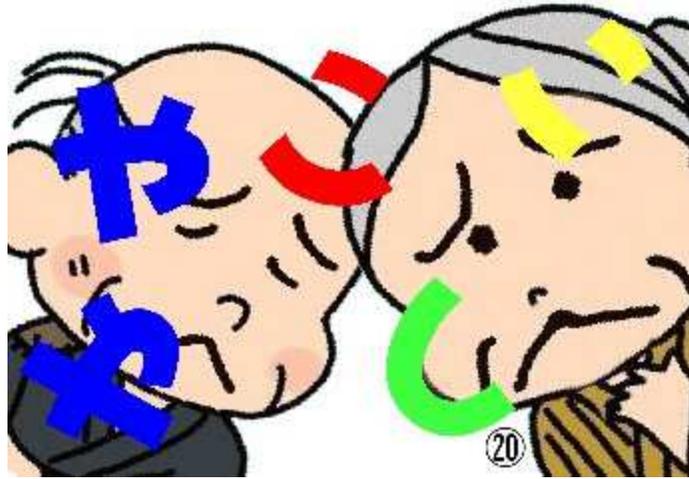
3じ50ぶん



4じ50ぶん

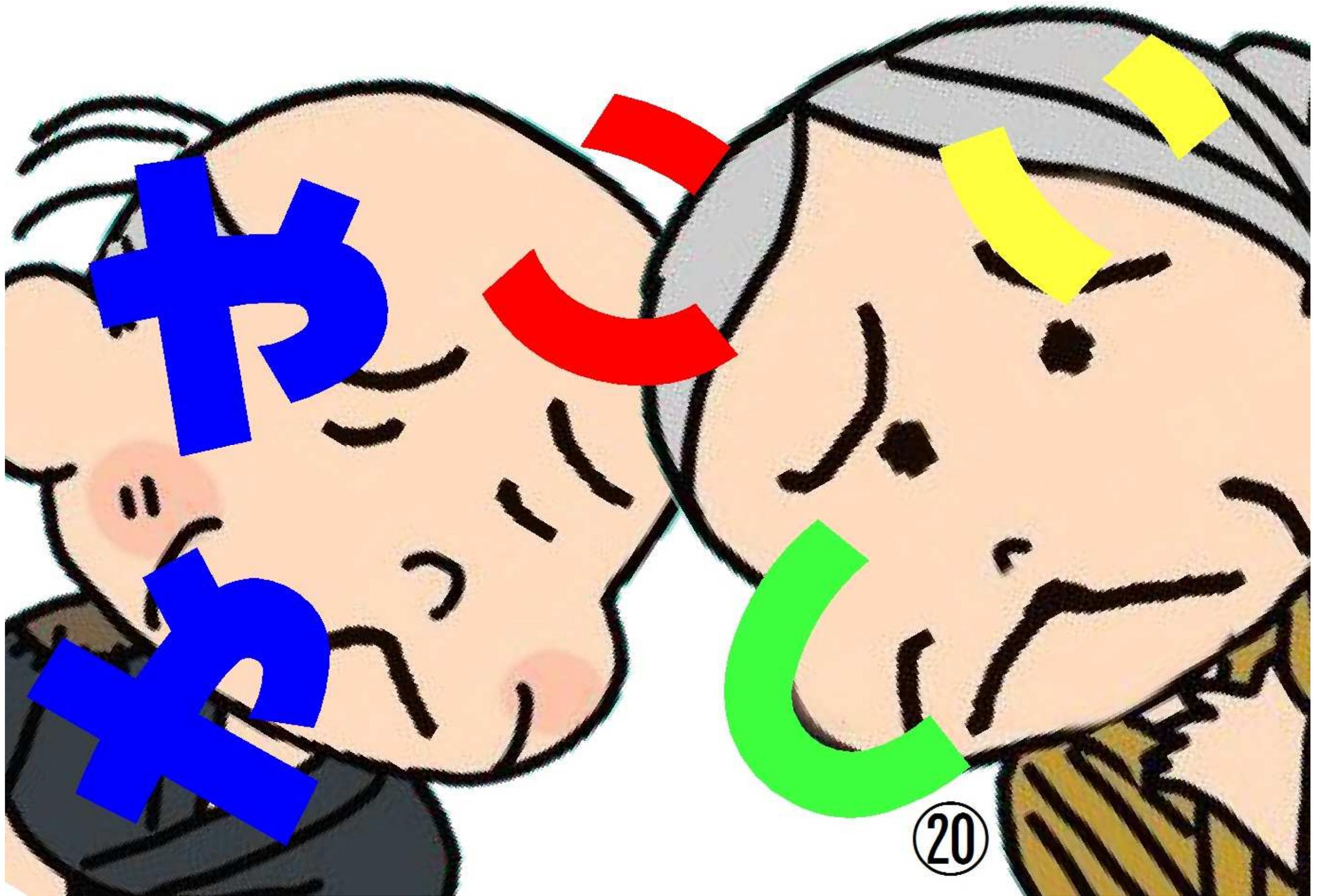


⑱の裏



おじいさんとおばあさんも来て、すぐに兄弟げんかで困りました。

ややこしい。



⑳の裏

まだどけい



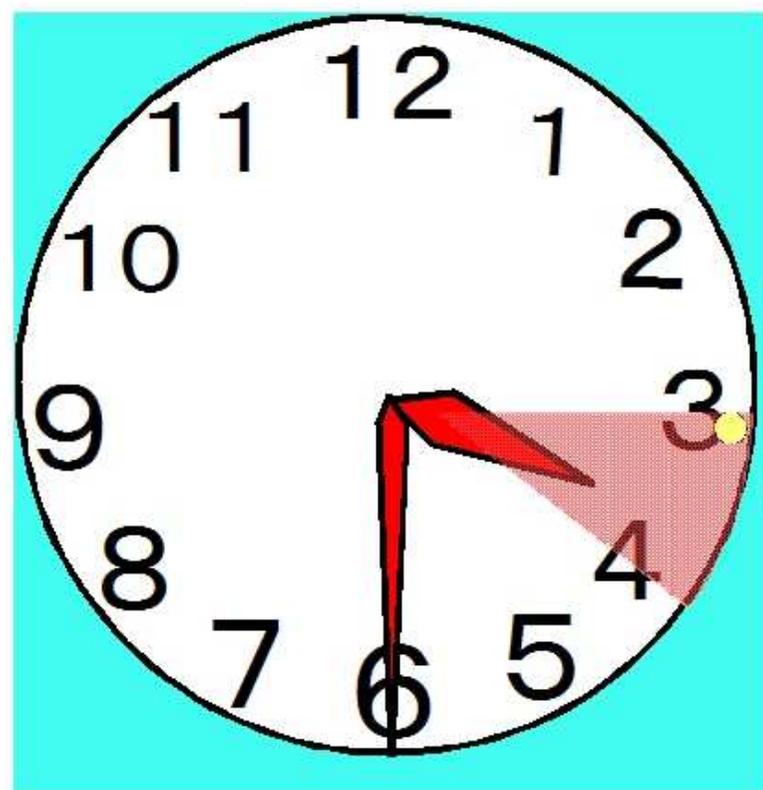
いい物があるよ。まだ時計。

時計教具を出して、シールから、ピンクのところを、まだ、何時というところ。
短い針がピンクの間にあると、まだ3時後は、長い針をよむといいんだよ。

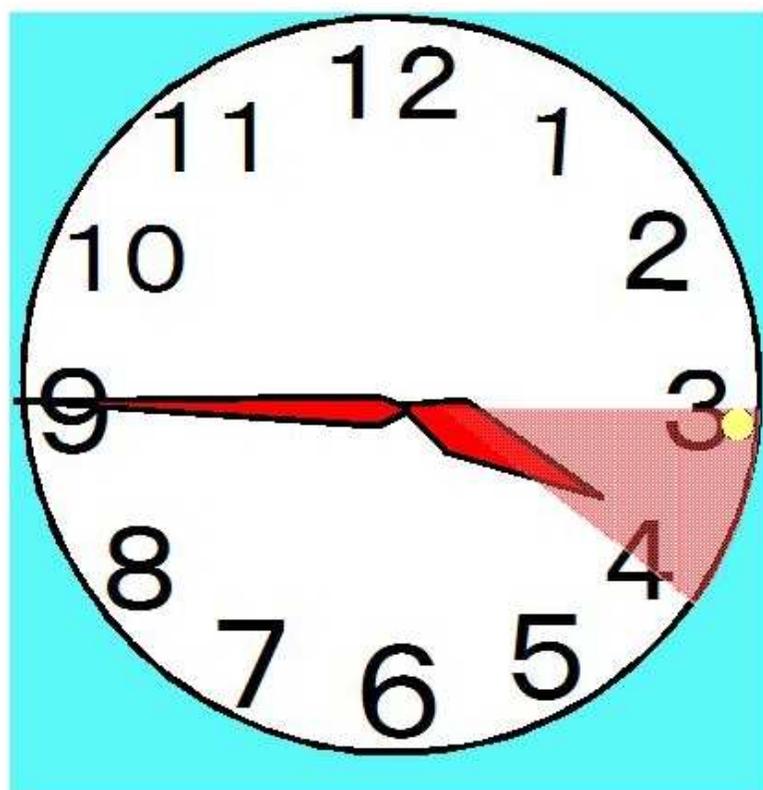


読んでみよう。まだ、3時30分。
次は、まだ3時45分、最後は、3時55分。

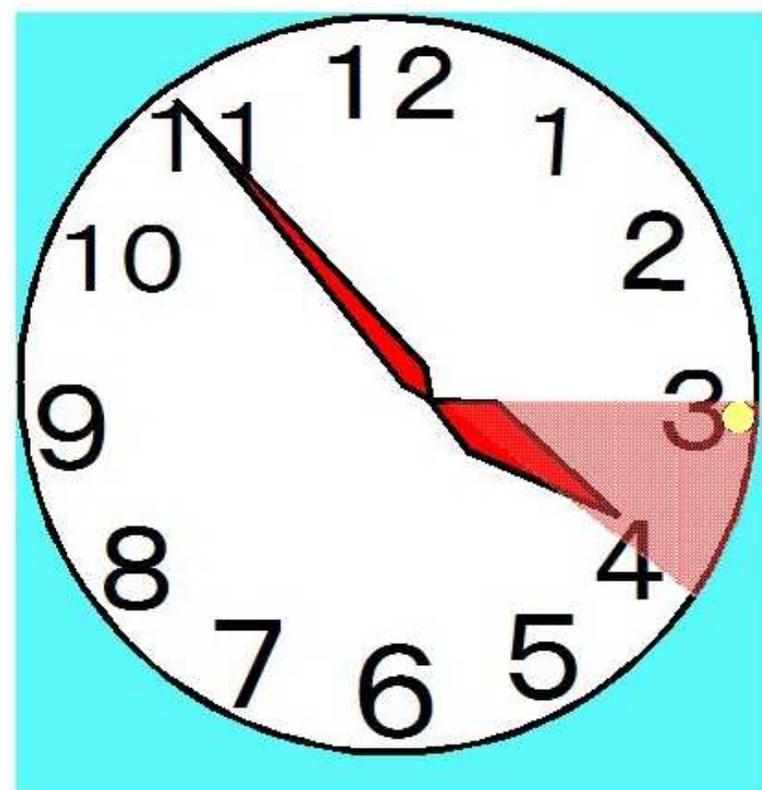
まだごごかい



まだ
3じ30ふん



まだ
3じ45ふん



まだ
3じ55ふん



まだ時計で，兄弟は仲直り。
なんと，いいことに，まだ時計のごりやくで，おじいさんとおばあさんは，まだまだ長生きして楽しく暮らしましたとさ。

まだまだ

は

た

り

き

完





時刻を読むことの難しさって?? 隆杉千草

- ①長針と短針があって、それぞれが「何時」と「何分」を示していること。
- ②長針の指す数字をそのまま読んだら間違いになってしまうこと。（「1」を指しているのに「5分」。「2」を指しているのに「10分」 など。）

時計の学習って、頭の中で処理することが実は多くて、混乱している児童がいるかもしれない。長針の読み方を、なんで覚えなくてはいけないのかと、疑問に思っている児童がいるかもしれない。時計の難しさに寄り添いつつ、長針の読み方を覚える必然性を、どうにか感じさせる授業ってできないかなあと考え、できたのが寸劇を交えたこのお話です。

ややこし時計で大騒動 原作 隆杉千草 絵 芦川健

これから、おじいさんとおばあさんの楽しいお話を始めます。はじまりはじまり。。。。。